

国際課活動レポート

◆アジア・オセアニア高校生フォーラム（7月24日（火）～29日（日））



和歌山県がグローバル社会で活躍する次世代のリーダーの育成を目的に開催するアジア・オセアニア高校生フォーラムも今年で4回目を迎えました。県内高校14校、県外高校5校、海外高校20校の生徒が参加し、世界共通の課題について議論するとともに、様々な交流プログラムを通じ、友情や絆を深めました。

★ “きのくに21” で特集された際の動画がご覧いただけます。

https://www.pref.wakayama.lg.jp/bcms/nettv/p_ch4/ch4_movie/01_h30nendo/20180812.html

★フォーラム参加者によるゲストコラムもご参照ください。（p.3）

◆ブルネイとの青少年交流（8月5日～12日）



14名の高校生による青少年代表団がブルネイに派遣され、交流を続けるヤヤサン高校や在ブルネイ日本国大使館等を訪問しました。参加者はホームステイを通じて、イスラム圏文化に触れました。「ブルネイに滞在できたことで、イスラム圏は怖いという偏見を取り除くことができた。」「英語でコミュニケーションを取る難しさを感じたが、派遣後も継続してホストファミリーとSNSでやり取りを続けている。」など、様々な面で成長を実感し、無事帰国しました。

◆スペイン・ガリシア州の青少年代表団（9月3日～10日）

スペイン・ガリシア州の青少年代表団が9月3日～10日の日程で和歌山を訪れました。ともに世界遺産である熊野古道とスペイン・ガリシア州のサンティアゴ巡礼道は、世界でも例を見ない姉妹道提携をしており、今年は20周年を迎えました。

今回はあいにく台風に見舞われ、和歌山大学での交流や歓迎夕食会などが行えなくなるという不運もありました。しかし、3日目からは予定通り白浜、熊野古道、熊野本宮大社、熊野那智大社、那智の滝など県内各地を訪問。熊野高校空手部での体験入門、新宮高校文化祭見学、ホームステイなどを経験しました。

異文化体験記

◎和歌山県職員による「異文化体験記」です。

和歌山県からインド・マハラシュトラ州に派遣されている大西と申します。私はマハラシュトラ州の州都であるムンバイで働いています。これまで和歌山県の事務所はオーランガバードという街にありましたが、2017年よりムンバイに新たな事務所を開設しました。

ムンバイに赴任して早々驚いたのが、こちらの人々のクリケット熱です。ムンバイをホームタウンとするクリケットチームがあり、試合のある土曜日になるとユニフォームを着た多くのサポーターが、太鼓をたたき歌いながらスタジアムに駆け付けます。日本のサッカーや野球の試合さながらです。

また、電器店に展示されているテレビにクリケットが放送されていると、テレビを囲むように人だかりができ試合展開に一喜一憂しています。さらに、貧富の格

差の大きいインドでは、ホームレスの方でもスマートフォンを持っていることがあります。夜間路上でインターネット放送が見られる1台のスマートフォンを数人で囲んでいる光景も目にします。試合のある日は貧富に関わらずムンバイ中の人々が熱狂します。赴任前に、インド人が熱狂する3つのモノは「クリケット、 Bollywood、 政治」であると聞いたことを思い出しました。

インドのプロのクリケットリーグは、インディアン・プレミアリーグ (IPL) と言われ、世界中のトップ選手が集まる世界最高峰のリーグです。しかし、歴史的・政治的背景から隣国パキスタンの選手は受け入れられないようです。このIPLで活躍するトッププレーヤーは、年収20億円を超えと言われています。このようなトッププレーヤーを目指して、インドの路地や空き地では子供たちがバットとボールを持って遊ぶ光景が至る所で見られます。



クリケットスタジアムの入口



広場でクリケットをする人々

インドはこのようにクリケットが大好きすぎる国民で、代表チームは世界ランキング1位の強豪です(2018年2月時点)。しかし、国民がクリケットにだけ熱中するあまり、インドは世界2位の13億人を抱える超大国であるにもかかわらず、他のスポーツの成績はあまり良くありません。前回のリオデジャネロ五輪で獲得したメダルはわずか2個だけです。

インドがスポーツの国際大会で結果を出せない要因は、2つあると言われています。一つは、先述の通り、他のスポーツに関心を寄せ付けないクリケットの存在。もう一つの理由は、カースト制度と言われています。特に地方では異なるカーストの人々が同じスポーツをすることに抵抗感があり、スポーツの発展を妨げる要因になっていると言われています。また貧困により、子供たちにはスポーツより勉強または労働を優先させる親が多くいるようです。

しかし、モディ首相が就任して以降、数年前からさまざまなスポーツ振興や選手強化の政策が行われています。インドは東京オリンピックで二桁のメダル獲得を目標にしているそうです。東京オリンピックでは、インド代表の選手たちの活躍にも期待をしたいと思います。

〈大西辰典(平成30年4月よりインド・ムンバイに派遣中)〉

ゲストコラム

◎和歌山県内在住の外国人の方や、和歌山県を訪れた外国人の方に和歌山や出身地についてご紹介いただくコーナーです。今回は、アジア・オセアニア高校生フォーラムの海外参加者の皆さんに、和歌山の印象や出身地の紹介などを語っていただきました。

● インドネシア 生徒 Kayla Anasya Afriandy (カイヤ・アナシャ・アフリアンディ) さんより

出身地の紹介：インドネシアは東南アジアにある熱帯の国で、300以上の民族からなる2億人以上の人々が暮らしています。インドネシア料理のビーフルンダンとナシゴレンは、CNN Travelの世界で最も美味しい食べ物に選ばれています。インドネシアで最も人気のある観光地は、素晴らしいビーチで有名なバリ島です。



ビーフルンダン

和歌山で印象に残ったこと・出身地との違い：和歌山には友好的でしっかりしている人が多いと思いました。インドネシアと比べると、時間をきちんと守る人も多いです。建物や自然などの素晴らしい景観も印象に残りました。インドネシアではまだ賑やかな時間帯である夜8時頃に、和歌山ではほとんどの店やレストランが閉まってしまうのには驚きました。



メッセージ：日本とインドネシアは、文化や生活様式などにおいて大きな違いがあります。しかし、私たち若い世代の一人ひとりがこの違いを尊重しながら、互いに良好な関係を維持し、強い絆を築いていく必要があります。

● フィリピン 引率教員 Marina Jolina E. Lechoncito (マリア・ジョリナ・E・レチョンシト) さんより

出身地の紹介：多数の島からなるフィリピンには、ボラカイ島やパラワン島など、国の至るところに魅力的なビーチリゾートがたくさんあります。イントラムロス、ルネタ公園、バナウェ・ライステラスなどの有名な観光地や、博物館もたくさんあります。これらの場所を訪れることにより、フィリピンの歴史と文化について理解を深めることができます。

和歌山で印象に残ったこと・出身地との違い：文化面での違いとしては、多くの国の植民地であったフィリピンがさまざまな文化の影響を受けてきた



ボラカイ島

のに対し、日本は古くからの自国の文化を守りながら近代化を遂げた点にあります。和歌山では仏教寺院などにみられる伝統文化と、日本の近代的な一面がうまく調和しているところが印象に残りました。また、交通機関については、フィリピンではまだ改善すべき点が多く、政府の方針に基づいて開発が進められていますが、和歌山には電車やバスなど多くの交通機関がありました。和歌山の人々はとても親しみやすく温かく接してくれて、この点はフィリピン人と変わりませんでした。おかげでホームシックにかかることもなく、第二の故郷のように感じることができました。



メッセージ：みなさんにとって大切なのは、世界を旅して見聞を広めることです。さまざまな異文化について学ぶことにより、自分自身についてもより深く知ることができるからです。異国の人々の生活様式を知ること、その良い点を取り入れたり、自国の文化の良さに気付くことができます。そして、自らのアイデンティティを守りつつ、異文化の大切さを学ぶことができるようになります。